

初の自社ブランド書類裁断機発売へ

今春以降5タイプ投入

新規OEM先開拓も推進

オリエンタル

事務機器製造のオリエンタル(桐生市相生町3-800-21、能澤孝博代表社員☎0277-532411)は、自社ブランドの書類裁断機を初めて商品化する。国内初の書類裁断機メーカーとして培ったノウハウに加え、裁断くずの量が一目で分かる「屑量メーター」を装備するなど、ユーザーのニーズにきめ細かく対応。「ORIシュレッダー」のブランド名で今春市場投入し、順次ラインアップの拡充も行う予定。同社はこれまで、OEMに特化した事業展開を進めてきたが、販売促進につなげるために自社商品発売を決めた。併せて、OEM供給先の開拓も進め、2年後に年間1万台の増産を目指す。

同社は59年から書類裁断機を製造しOEMで供給してきたが、個人情報保護法案によって一時的に急増した需要の反動や、折からの不況の影響などから、近年は販売数が減少していた。そこで販売促進を図ろうと、自社ブランド商品の発売や、新規供給先の開拓に

取り組むこととし、昨年6月から新商品開発を進めてきた。従来は、取引先の要望に合わせた商品開発を行ってきたが、自社商品開発に際し、自社で初めて市場調査を実施。「要望には細かく対応した」(能澤公擴開発技術部長)と



今春発売する「ORIシュレッダー」1号機

待機状態が5分続くと電源を切る「待機電力オートカット」や「紙詰まり防止機構」など、利便性の高い機能も採用。操作部のLEDを電源オフ時には消灯し

を備える上位機種や、機能を裁断に絞った廉価版、小型機など4タイプの開発を進めており、順次ラインアップを拡充していく考え。

また、他メーカー品の取り扱い業者などを中心に新規顧客の開拓も開始。感触は良いという。自社ブランド品、新規OEM供給品合わせて、年内に5000台、来年は1万台の生産を見込む。

能澤部長は「第二創業と考えている。59年から製造している老舗として、品質はトップレベルという自信がある。顧客の要望にこたえて、付加価値のあるものを供給したい」と話している。

て目立たなくするなど見た目にも配慮した。

まず1号機を今春発売する予定。その後、書類の誤投入防止や不要書類の一時的な置き場などに利用できる、電源に連動したスライド式のカバー

(夏井智之)